

公益社団法人可児市シルバー人材センター 令和2年度事業実施報告

新型コロナウイルス感染症の脅威は、衰えることなく、いまや世界中に拡散。全世界の感染者は14,210万人を超え、死者も303万人以上を数えています。日本でも3月下旬以降の感染者急増を受け、政府が全国を対象に「緊急事態宣言」を出し、感染拡大防止へ向け外出自粛などの徹底を国民に呼びかけました。シルバー人材センター事業では新型コロナウイルスをめぐって、これまでに「どんなことがあったか」を振り返ってみますと、生活様式が一変し、就業のみならず、会合、イベント等、ことごとく中止に思いやられました。人流の抑制は、シルバー人材センターにとって事業の縮小にもつながり、業績にも影響が出てまいりました。

また、中長期で計画した、「会員増強」においては、女性にとって魅力ある事業を多数企画し、女性が活躍できる環境を整えるなど、女性を勧誘するためのイベントも期待をかけていましたが、開催することができず、計画どおりにいきませんでした。しかしながら、新しい生活様式に対応しながら出来ることを考え、実行し感染予防に注意し、会員一丸となり、不安を解消しながら意見を出し合い、以下のような事業に取り組んできたことを中止も含め、報告いたします。

令和2年度の事業実績は、以下のとおりとなりました。

前年比

| | | |
|----------|---------------|---------|
| 1. 受託件数 | 3,568 件 | (82.0%) |
| 2. 契約金額 | 267,845,452 円 | (93.8%) |
| 3. 就業延人員 | 48,943 人日 | (74.4%) |
| 4. 会員数 | 866 名 | (95.8%) |

令和2年度の事業実施状況を報告します。

【事業体制】

本年度は、地域班活動においてその人に合った就業形態を把握し活動できる体制を整える。センター事業を通じ地域社会に貢献できる活動の構築などは、集まることが出来ず、体制づくりについては大きな後退となりました。

① 会員の拡充

会員の男女比では、7:3で男性の方が多いため、女性会員の勧誘に力を入れるため、女性部会を立ち上げ、女性にセンター活動を知っていただくためのイベントの企画も

中止となりました。

② 労働者派遣事業

派遣事業においては、労働契約法18条の規定に基づき、雇用期間が5年を迎える会員について、労働契約法18条の規定に抵触しないよう3者協議を重ねた結果、12名を有料職業事業に切り替えました。結果、契約金額 49,800 千円（前年対比▲6.1%） 就業延人日 7,843 人日（前年対比▲5.1%）といずれも前年度を下回る事となりました。今後も年々5年に達する該当者が少しずつ出てくるために派遣事業を希望する人の入れ替えに仕事がしたいと考える会員さんにご協力をいただき、スムーズな入替をめざす課題が浮き彫りになりました。

③ 介護保険事業

シルバー人材センターの介護保険事業所は、高齢者宅への訪問で、感染症に気を使い、マスク、携帯用消毒液、ゴム手袋を配布、更には体温計測、体調の状態を管理し『うつさない・うつらない』など、慎重に事業を進めてまいりました。また、各種勉強会を実施しスキルアップをしてきました。

④ 福祉有償運送事業

福祉有償運送事業は、今年度新たに更新手続きを完了し運送事業を継続しております。軽自動車の福祉有償運送サービスは、狭い空間で、利用者も高齢者や基礎疾患をお持ちの方々なので、新型コロナ感染症については慎重に対処してきました。今年度は、コロナ禍の影響が顕著で利用者の外出自粛と思われる減少が明らかで、契約額▲108,000 円、件数では▲242 件となり、以下のようになりました。

契約件数 732 件、契約金額 691,800 円、就業の時間 732.5 時間でした。

⑤ 指定管理

老人福祉センター可児川苑、やすらぎ館は、この事業もまた、コロナ禍の影響で、休館を余儀なくされました。その後も、利用者は少なく、事業計画のとおりに行くことが出来ませんでした。高齢者施設での感染が拡大する傾向にあるとの状況に、運営をどうしたらよいのか暗中模索の状況で、今後の課題となるでしょう。

⑥ 農業事業

今年度は、ごんぼが好調でした。「菅刈ごんぼ」可児市の特産品として随分定着してまいりました。可児ッテ（道の駅）からは、畑に出来たもの全部買い取りたいと言われましたが、他にも期待されて楽しみにしている方があり、幅広く提供したいとの思いで断りました。また、今年は、残念なことに連作障害を避けるために耕作地の入れ替えがあり、その土地の水はけが悪いことなどから黒豆が不作で収穫が落ち込み減収となりました。延就業時間 1,294.5 時間、310,000 円の売り上げとなり、配分

金は1時間239円でした。農業をすることは、人的要件や自然との闘いで、相変わらず安定的な収穫が難しく皆で努力を繰り返しておりますが、仲間との結束力も年々高まり、コロナ禍においても恒例の収穫祭を兼ねた総会を開催し、更なる仲間づくりを進めます。

⑦ 安全適正就業対策

安全委員会では、カルマーの導入後、事故件数が減り効果が出て来てきました。今年度は、安全会議2回、安全パトロール1回と例年より少なかったこともコロナ禍の影響ではありますが、こうした状況での安全対策も今後の課題と認識いたしました。

⑧ ボランティア活動

今年度も、シルバー人材センター理念、「伝えよう地域の文化と伝統、さしのべよう福祉の手と心、守ろう、きれいな水と空気」こうした活動など、前年度を踏襲し実施計画を致しましたが、後半に新型コロナウイルス感染症により、相次いで中止となりました。

令和2年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事情報告の内容を補足する重要な事項」がないので作成しない。

令和3年5月31日

公益社団法人可児市シルバー人材センター